

**PRIMERGY**

B7FY-2231-01



# **取扱説明書**

---

**SX35 ハードディスクキャビネット**  
(PG-R2DC1)

**FUJITSU**

# はじめに

このたびは、弊社の PRIMERGY SX35 ハードディスクキャビネット (PG-R2DC1) をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、PRIMERGY SX35 ハードディスクキャビネット (PG-R2DC1) (以降、本製品) の取り扱い方法や周辺装置の接続方法などについて説明しています。ご使用になる前に本書およびサーバ本体の『ユーザーズガイド』をよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

2008 年 1 月

## 安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

## 注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## 本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途 (以下「ハイセイフティ用途」という) に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

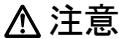
当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波ガイドライン適合品

# 本書の表記

## ■警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

## ■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

## ■製品の呼び方

本文中の製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY SX35 ハードディスクキャビネット	ハードディスクキャビネット／本製品／本体

# 安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、次の内容を必ずお守りください。

## ■ 万一、異常が発生したとき

### ⚠ 警告

プラグ



- 万一、本製品から発熱や煙、異臭がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。  
その後、販売会社または修理相談窓口に修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
その後、販売会社または修理相談窓口にご連絡ください。  
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

## ■ 本製品の取り扱いについて

### ⚠ 警告

分解



- 本製品をお客様自身で改造しないでください。  
火災・感電の原因となります。
- 装置本体のカバーや差し込み口に付いているカバーは、電池交換やオプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。  
内部の点検、修理は販売会社または修理相談窓口にご依頼ください。  
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
- ディスプレイに何も表示できないなど、故障している状態では使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。  
故障の修理は販売会社または修理相談窓口にご依頼ください。
- 開口部（通風孔など）から装置内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。
- 本製品の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所、直射日光の当たる場所、強い磁界が発生する場所に置かないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。



- ・本製品に水をかけないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。
- ・風呂場、シャワー室などの水場で本製品を使用しないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。



- ・近くで雷が起きたときは、電源ケーブルやその他ケーブル類をコンセントから抜いてください。  
そのまま使用すると、雷によっては本製品を破壊し、火災の原因となります。



- ・表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。  
また、タコ足配線をしないでください。  
火災・感電の原因となります。
- ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。  
感電の原因となります。
- ・電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。  
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、過熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- ・電源ケーブルや電源プラグが痛んだときや、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。  
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



- ・電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。  
そのまま使用すると、火災の原因となります。



- ・アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアースを接続してください。アース接続ができない場合は、販売会社または修理相談窓口にご相談ください。万一漏電した場合に、火災・感電の原因となります。
- ・取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。  
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

## △ 注意



- ・装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- ・本製品の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。バランスが崩れたり、落下したりしてけがの原因となります。
- ・振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- ・ACアダプタを使用する装置の場合は、マニュアルに記載されていないACアダプタは使用しないでください。また、ACアダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- ・サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。  
火災・けがの原因となります。
- ・電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。  
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- ・電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。  
火災・故障の原因となります。
- ・本製品を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。  
また、電源ケーブルなども外してください。  
電源ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となったり、装置が落下したり倒れたりしてけがの原因となります。
- ・長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。  
火災・感電の原因となります。



プラグ



## ■ 安全に取り付けるために

## △ 注意



- ・本製品のすべての電源ケーブルを1つのテーブルタップに接続する場合、テーブルタップのアース線に、規定値（3.5mA）を超える漏洩電流が流れる可能性があります。電源ケーブルの接続に先立って、アース線を接続してください。  
また、テーブルタップが分電盤と直結していない場合は、工業用プラグを有するテーブルタップを使用してください。

## 梱包物の確認

---

お使いになる前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。  
万一足りないものがございましたら、担当営業員にご連絡ください。

- ・**ハードディスクキャビネット本体 (1 台)**
- ・**電源ケーブル (2 本)**
- ・**取扱説明書 (本書 PRIMERGY SX35 Document CD 1 枚)**
- ・**取付金具 (1 式)**
- ・**保証書 (1 部)**

各製品名は、各社の商標、または登録商標です。  
各製品は、各社の著作物です。

# 目次

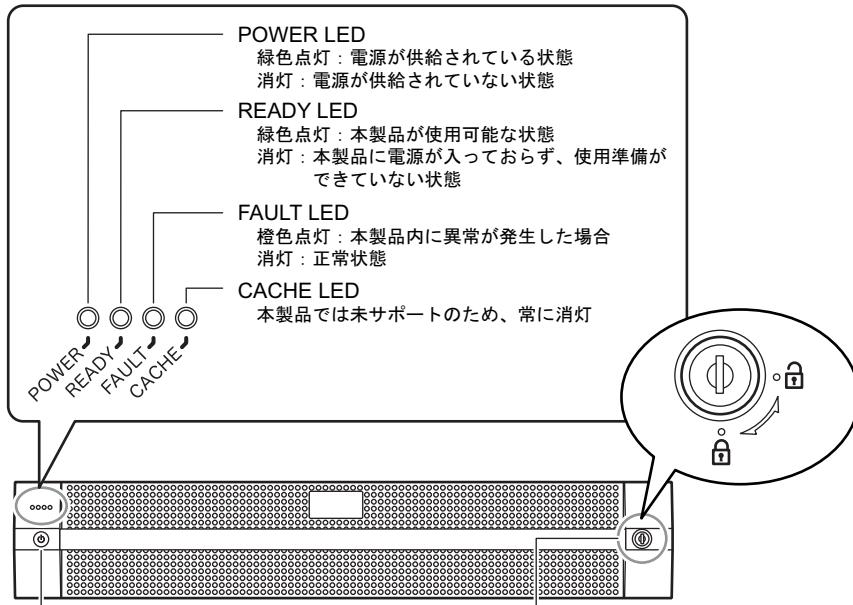
<b>1</b>	<b>各部の名称と働き</b>	<b>9</b>
1.1	本体前面	9
1.2	本体背面	11
<b>2</b>	<b>設置と接続</b>	<b>12</b>
2.1	ラックへの搭載	12
2.2	各種ケーブルの接続	15
<b>3</b>	<b>基本的な操作</b>	<b>17</b>
3.1	電源を入れる	17
3.2	電源を切る	18
3.3	フロントカバーの取り外し	18
3.4	フロントカバーの取り付け	19
<b>4</b>	<b>内蔵ハードディスクユニットの取り付け</b>	<b>20</b>
4.1	取り付け位置	22
4.2	取り付け可能なハードディスク	22
4.3	取り付け手順	22
<b>5</b>	<b>電源ユニットについて</b>	<b>24</b>
<b>6</b>	<b>ファンユニットについて</b>	<b>25</b>
<b>7</b>	<b>トラブルシューティング</b>	<b>26</b>
7.1	確認事項	26
<b>8</b>	<b>本体仕様</b>	<b>28</b>
	<b>付録 A ServerView での監視について</b>	<b>29</b>

# 1 各部の名称と働き

ここでは、本製品の各部の名称とその機能について説明します。

## 1.1 本体前面

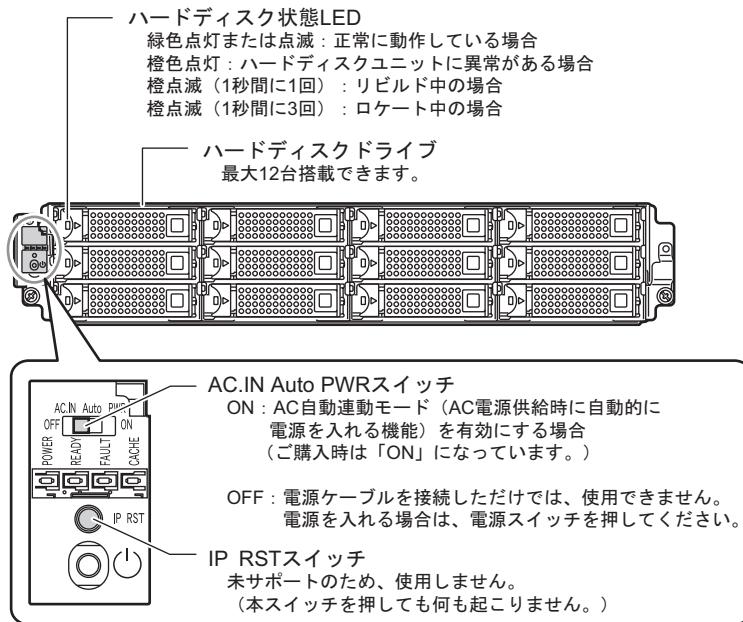
### 1.1.1 フロントカバーを付けた状態



#### POINT

- ▶ 障害を解決するための手順は、「7 ラップルシューティング」(→ P.26) に記載されています。

## 1.1.2 フロントカバーを取り外した状態



## 1.2 本体背面

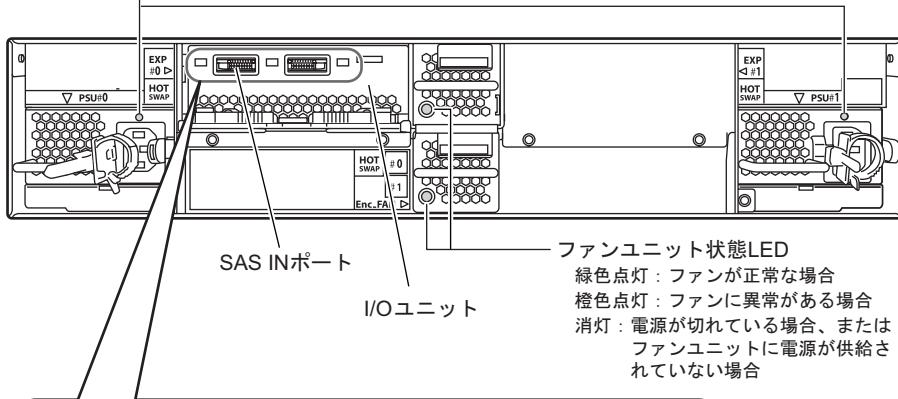
### 電源状態LED

緑色点滅：AC電源が供給されている（インレットに電源コードが接続されている）状態で、本製品の電源（DC）が切れている場合

緑色点灯：AC電源が供給されている状態で、本製品の電源（DC）が入っており、かつ電源ユニットに異常がない場合

橙色点灯：電源ユニットにAC電源が供給されていない場合、または電源の故障など異常がある場合

消灯：AC電源が供給されていない場合



### I/Oユニット状態LED



■ 緑色点灯：電源が入っている、かつSASケーブルが接続されている状態  
■ 消灯：電源が入っていない、またはSASケーブルが接続されていない状態

■ OUT 未サポートのため、常に消灯

■ 緑色点灯：電源が入っている状態  
■ 橙色点灯：I/Oユニットで異常（ファンの故障、温度異常）がある場合  
■ 消灯：電源が切れている状態

## 2 設置と接続

ここでは、本製品をラックに搭載する方法、およびサーバとの接続方法について説明します。

### 2.1 ラックへの搭載

本製品をラックに搭載する方法について説明します。

#### ⚠ 警告



- ・作業を行う前に、本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。
- ・本体および本体に接続しているサーバの電源が入っている場合は、必ずすべての装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから作業を行ってください。感電のおそれがあります。
- ・本製品をラックに搭載する場合、またはラックから下ろす場合は危険ですので、必ず2人以上で作業してください。

#### ⚠ 注意



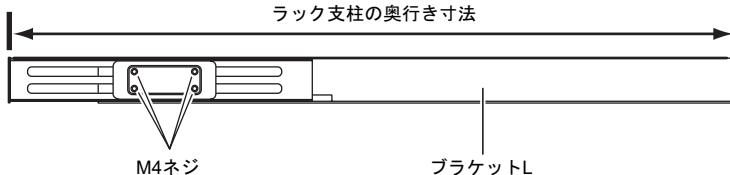
- ・ほかの装置が搭載されていない場所には、ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。
- ・本体には精密部品が搭載されています。ラックへ搭載するときに本体をぶつけたり、落下させたりしないよう注意してください。
- ・本章で説明している以外の取り付け方や分解を行った場合は、保証の対象外となります。

1 梱包物一覧をご覧になり、ラックマウントキットの部品がすべて揃っていることを確認します。

2 搭載するラックに合わせて、プラケットの寸法を調整します。

M4ネジをゆるめて、搭載するラックの支柱の奥行き寸法に合わせます。

なお、プラケットをラックに取り付けてからM4ネジで固定するため、ここでは仮止めの状態（ゆるめた状態）にしておきます。

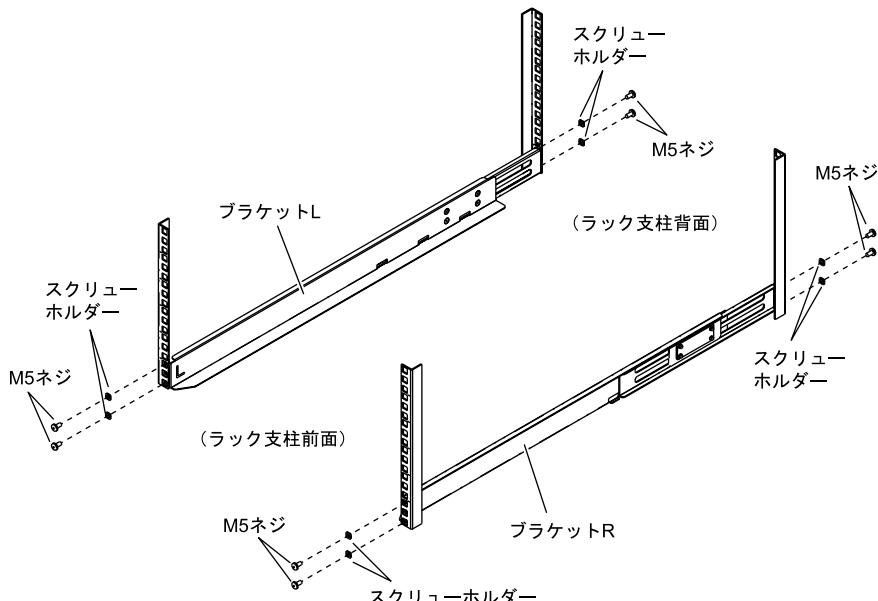


### 3 ブラケットをラックに取り付けます。

ブラケットには、「L」、「R」が印字されています。

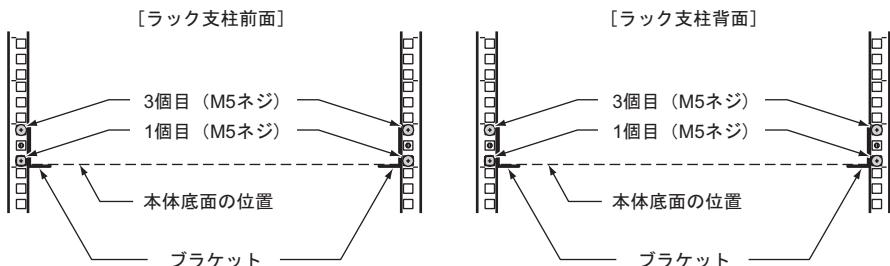
ラック支柱前面に向かって左側に「L」のブラケットを、右側に「R」のブラケットを取り付けてください。

ラック支柱が角穴（約9mm）の場合は、スクリューホルダーを使用してください。  
ブラケットは、できるだけ外側に広げるようにして取り付けてください。



ブラケットを取り付けるM5ネジの位置は、本体を取り付けたときの底面の位置で決まります。前面、背面ともに1個目と3個目に固定します。

ブラケットを取り付ける際は、「PRIMERGY SX35 搭載用テンプレート CA92276-8010」を使用してください。

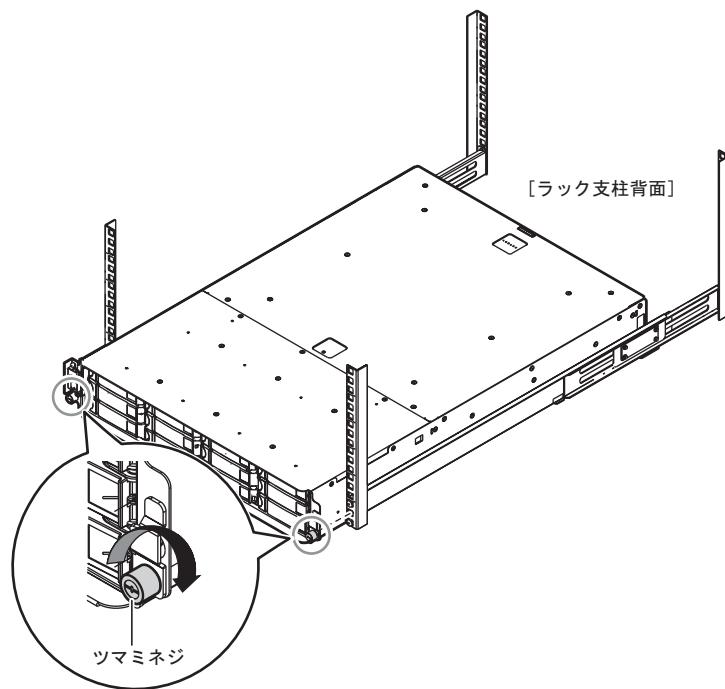


### 4 手順2で仮止めしたブラケットのM4ネジをしっかりと固定します。

### 5 本製品のフロントカバーを取り外します。

→「3.3 フロントカバーの取り外し」(P.18)

**6 本製品をラックに搭載し、ラックに固定します。**



**7 フロントカバーを取り付けます。**

→「3.4 フロントカバーの取り付け」(P.19)

## 2.2 各種ケーブルの接続

本製品を稼動させるには、SAS ケーブルと電源ケーブルを接続する必要があります。

### ● 重要

- 接続するサーバの電源が入っている場合は、サーバの電源を切ってからケーブルを接続してください。

### 2.2.1 SAS ケーブルの接続

#### △ 警告

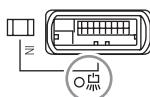


- 作業を行う前に、本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。

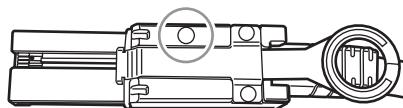
#### 1 SAS ケーブルのコネクタ部分の裏側に付いている記号を確認します。

SAS IN ポートに印字されている○と同じ「○」が付いている方のコネクタを使用します。

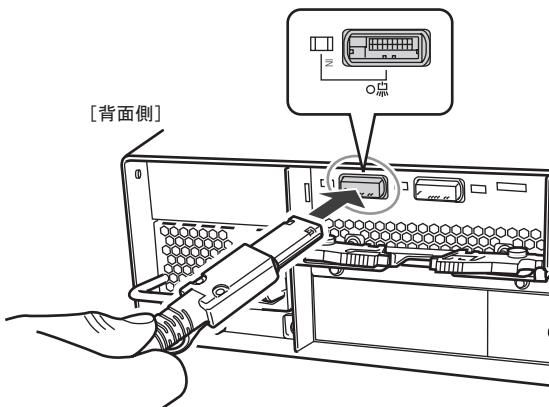
[SAS IN ポート]



[SAS IN ポート側に接続するコネクタ]

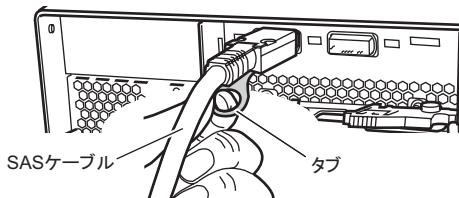


#### 2 SAS ケーブルを I/O ユニットの SAS IN ポート（左側）に接続します。 もう一端をサーバに接続します。



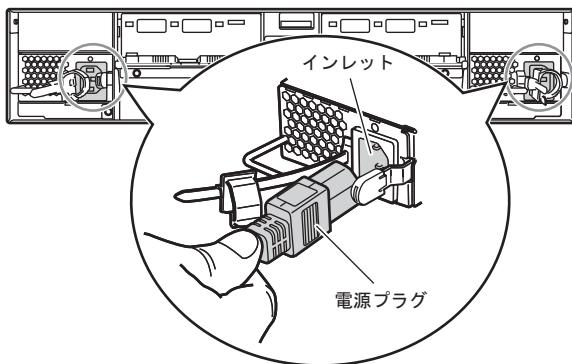
## POINT

- ▶ SAS IN ポート用のコネクタは、SAS OUT ポートには接続できません。
- ▶ SAS ケーブルを取り外す場合は、コネクタ部分のタブ穴に指を入れて引き抜いてください。

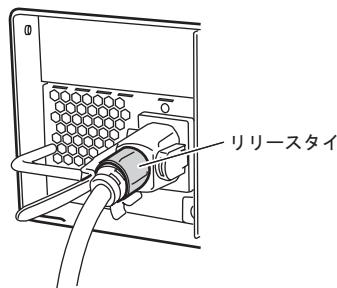


### 2.2.2 電源ケーブルの接続

- 1 電源プラグを、電源ユニットのインレットに接続します。



- 2 リリースタイを電源プラグに巻き、電源プラグが抜けないように固定します。



- 3 もう片方の電源プラグを電源コンセントに接続します。

## 重要

- ▶ 電源ケーブルを抜いたあと、すぐに電源ケーブルを接続する場合は、I/O ユニットの STS LED が完全に消灯するのを待ってから（約 10 秒後）、接続してください。

# 3 基本的な操作

ここでは、電源操作およびフロントカバーの取り外し／取り付け方法について説明します。

## 3.1 電源を入れる

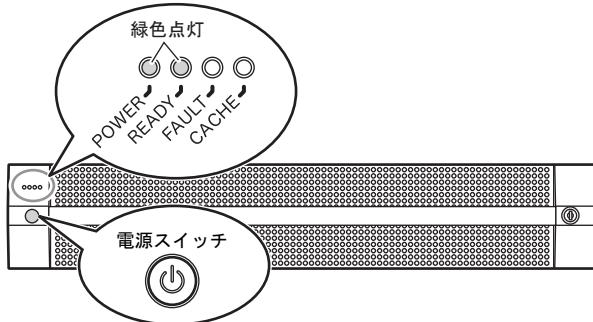
AC.IN Auto PWR スイッチを「OFF」に設定している場合、次の操作で電源を入れます。



- 接続サーバの電源を入れる前に、必ず本製品の電源を入れてください。

### 1 電源スイッチを押します。

POWER LED と READY LED が緑色に点灯します。



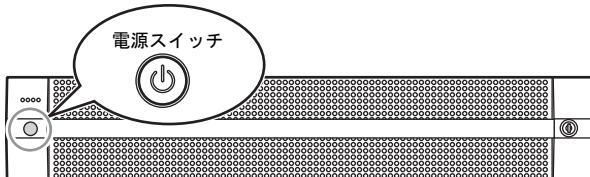
## 3.2 電源を切る

本製品の電源を切る操作は、次のとおりです。

### ※重要

- 本製品の電源を切る前に、必ず接続サーバの電源を切ってください。

#### 1 電源スイッチを4秒間以上押します。



#### 2 READY LED が消灯したら、スイッチから手を放します。

電源が切れます。

## 3.3 フロントカバーの取り外し

ハードディスクを取り付ける場合など、フロントカバーを取り外す必要があります。取り外し方法は、次のとおりです。

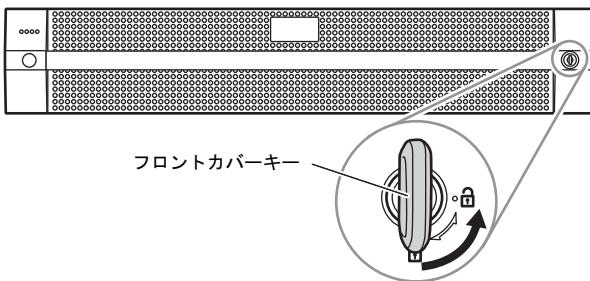
### ⚠ 注意



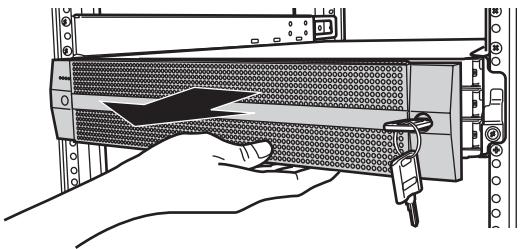
- フロントカバーのロックを解除すると、フロントカバーが外れて落下するおそれがあります。ロックを解除する場合は、フロントカバーを押さえた状態で操作してください。

#### 1 フロントカバーのロックを解除します。

フロントカバーキーを押しながら、反時計回りに90度回します。



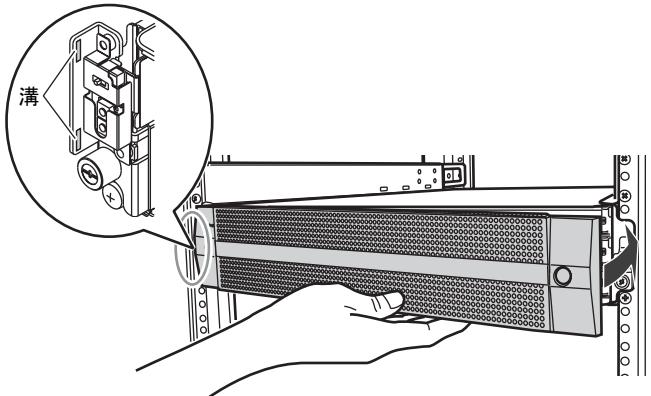
**2 フロントカバーを手前に引き、取り外します。**



### 3.4 フロントカバーの取り付け

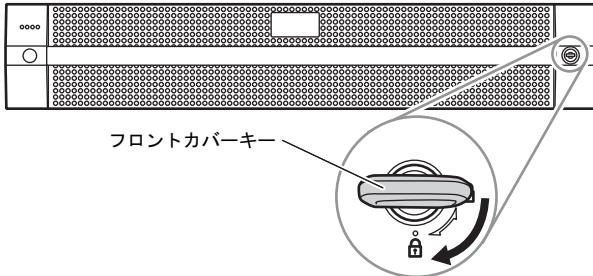
フロントカバーの取り付け方法は、次のとおりです。

**1 フロントカバーを本体左側の溝にはめ込んでから、右側部分を取り付けます。**



**2 フロントカバーをロックします。**

フロントカバーキーを押しながら、時計回りに 90 度回します。



# 4 内蔵ハードディスクユニットの取り付け

本製品には、最大 12 台のハードディスクを搭載できます。

本製品は、動作中に故障ハードディスクの交換（活性交換）、ハードディスクの追加（活性増設）ができます。

「活性交換」機能は、対応する RAID 構成でのみ実行可能です。RAID 構成または RAID レベルの詳細は、アレイコントローラのマニュアルを参照してください。

## ⚠ 警告



- ・ ハードディスクを取り扱う前に、本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電してください。
- ・ ハードディスクを取り付けるときは、内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・発火・感電のおそれがあります。

## ⚠ 注意

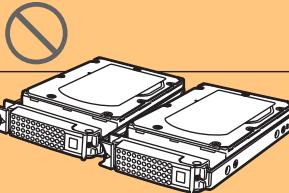


- ・ 本章で説明している以外の取り付け方や分解を行った場合は、保証の対象外となります。
- ・ システムの動作中にハードディスクを取り外さないでください。
- ・ 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。
- ・ ハードディスクを乱暴に取り扱わないでください。内部のデータが破壊されることがあります。
  - 落としたり、衝撃を与えるしないでください。
  - ハードディスク同士をぶつけたり、他の物にぶつけたりしないでください。
  - 金属質の物を接触させないでください。
- ・ ハードディスクの上に、物を置かないでください。
- ・ 付近で携帯電話を使用しないでください。
- ・ 次の場所での使用および保管は避けてください。
  - 磁石のそばや強い磁界を発生する場所
  - 発熱器具のそばや直射日光があたる場所
  - 極端に温度／湿度変化が激しい場所
  - 湿気やほこりが多い場所
  - 衝撃や振動が加わる場所
- ・ すでに搭載されているハードディスクを、別のディスクベイに移動しないでください。

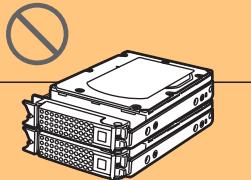
## ⚠ 注意



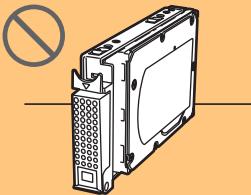
- ・ ハードディスクを机上などに置く場合は、次の点に注意してください。
  - ハードディスクを完全に机上に置くまで、落としたり倒したりしないでください。
  - 直接、金属質のもの上に置かないでください。
  - ハードディスク同士を接近した状態で置かないでください。



- 複数のハードディスクを積み重ねて置かないでください。



- 縦向きに置かないでください。



## 4.1 取り付け位置

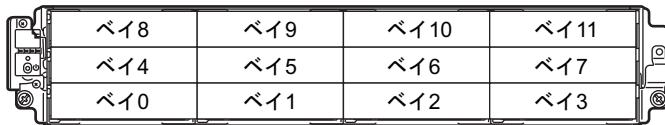
ハードディスクは、本体前面のディスクベイに取り付けます。

### 重要

- ▶ ハードディスクを搭載していないディスクベイには、冷却風制限のため、必ずダミーユニットを取り付けてください。

### ■ 搭載順

ベイ0から、番号順に取り付けてください。



## 4.2 取り付け可能なハードディスク

異なる容量のハードディスクを混在して搭載する場合は、搭載順に従ってください。

品名	型名	概要	搭載順
内蔵ハードディスクユニット -300GB	PG-HDB35B	300GB、15,000rpm、SAS 3.5インチ、ホットプラグ対応	1
内蔵ハードディスクユニット -147GB	PG-HDB45B	146.8GB、15,000rpm、SAS 3.5インチ、ホットプラグ対応	2
内蔵ハードディスクユニット -73GB	PG-HDB75B	73.4GB、15,000rpm、SAS 3.5インチ、ホットプラグ対応	3

## 4.3 取り付け手順

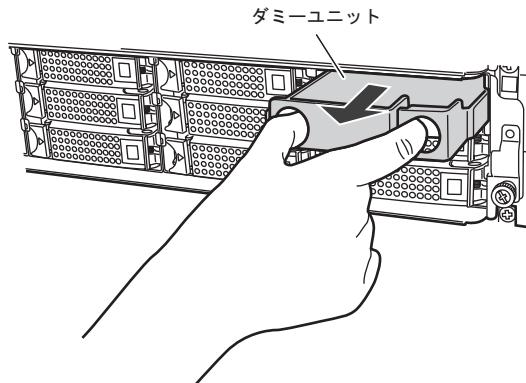
空きスロットにはダミーユニットが搭載されています。このダミーユニットは、ハードディスクを増設する前に取り外してください。

ハードディスクの取り付け手順は、次のとおりです。

### 1 本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電します。

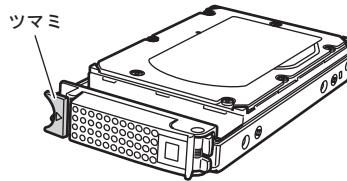
## 2 ダミーユニットを取り外します。

ダミーユニットの左右に穴に指をかけて、内側に押すようにしながら、まっすぐ引き出します。



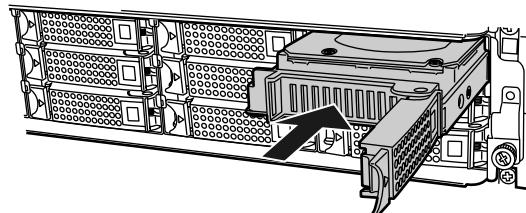
## 3 ハードディスクを取り付けます。

1. ハードディスクのツマミを押して、ロックレバーのロックを解除します。

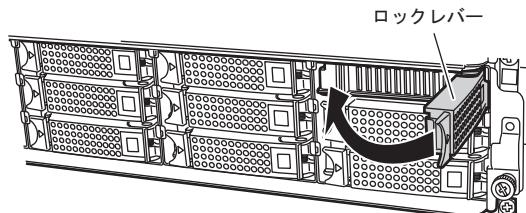


2. ハードディスクを本体に取り付けます。

ハードディスクの下部に手を添えて、ベイの奥まで差し込んでください。



3. ロックレバーを、矢印方向へ「カチッ」と音がするまで押します。



# 5 電源ユニットについて

本製品は、電源ユニットを2台搭載しており、冗長化された状態で動作します。この電源ユニットから、ハードディスクキャビネットに電源が供給されています。

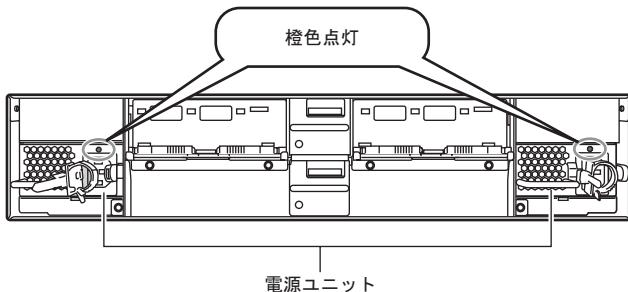
## POINT

- 1台目の電源ユニットが故障しても、システムの動作が停止することはありません。

### ■ 故障した場合

電源ユニットが故障すると、故障している電源ユニットの電源状態LEDが橙色に点灯します。

できるだけ早い機会に修理相談窓口に連絡してください。



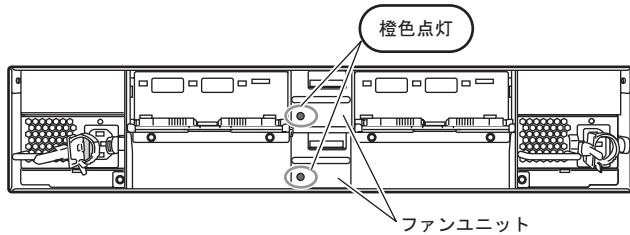
# 6 ファンユニットについて

ハードディスクキャビネットの冷却は、冗長なファンによって保証されています。

## ■ 故障した場合

ファンユニットが故障すると、故障しているファンユニットのファンユニット状態LEDが橙色に点灯します。

できるだけ早い機会に修理相談窓口に連絡してください。



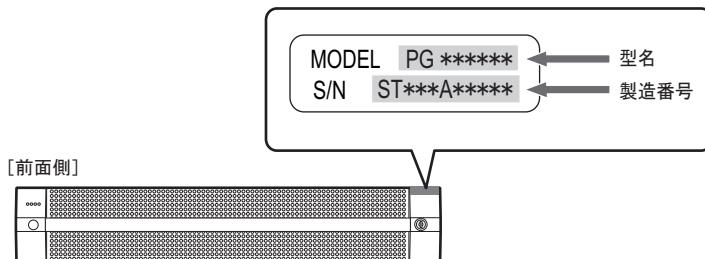
### POINT

- ▶ 電源が故障、または温度異常を検出した場合、ファンユニットの回転数が自動的に上昇します。

# 7 トラブルシューティング

操作中に「故障かな?」と思うようなことが起こったら、「7.1 確認事項」(→ P.26)で本製品の状態を確認して、修理相談窓口に連絡してください。

ご連絡の際は、本製品に貼付のラベルで型名および製造番号を確認し、お伝えください。



- ・「■ 本製品が異常な状態である」(→ P.26)
- ・「■ 本製品の電源が切断された」(→ P.27)
- ・「■ 本製品の電源が入らない」(→ P.27)
- ・「■ READY LED が点灯しない」(→ P.27)
- ・「■ FAULT LED が点灯した」(→ P.27)
- ・「■ 本製品に関するエラーメッセージがサーバに表示された」(→ P.27)
- ・「■ サーバからディスクが認識されなくなった」(→ P.27)

## 7.1 確認事項

### ■ 本製品が異常な状態である

通常の運用時に比べて、本製品が以下のような状態の場合は、本製品の電源プラグを電源コンセントから抜いて、分電盤の AC 電源を切ったあと、修理相談窓口に連絡してください。

- ・異常に熱い。
- ・異臭がする。
- ・煙が出ている。
- ・異常な音がする。
- ・異常に振動している。

## ■ 本製品の電源が切斷された

次のことを確認してください。問題が解決しない場合は、本製品はそのままの状態で修理相談窓口に連絡してください。

- ・本製品の電源コードが抜けていませんか。
- ・現在停電中ではありませんか。
- ・少し前に停電がありませんでしたか。

本製品が AC 自動運動モード (AC.IN Auto PWR スイッチが「ON」の状態) の場合は、復電すると、自動的に電源が投入されます。

## ■ 本製品の電源が入らない

次のことを確認してください。問題が解決しない場合は、本製品はそのままの状態で修理相談窓口に連絡してください。

- ・本製品の電源コードが抜けていませんか。
- ・AC コンセントボックスのメインラインスイッチ (MAIN LINE SWITCH) が OFF (○側) になっていませんか。
- ・現在停電中ではありませんか。
- ・SAS ケーブルが抜けていませんか。

## ■ READY LED が点灯しない

本製品の電源を入れたあと、10 分以上たっても READY LED が点灯しない場合は、修理相談窓口に連絡してください。

## ■ FAULT LED が点灯した

電源ユニットの故障やファンユニットの故障、または温度異常を検出した可能性があります。本製品はそのままの状態で修理相談窓口に連絡してください。

## ■ 本製品に関するエラーメッセージがサーバに表示された

業務に支障のない範囲でそのままお使いいただくことはできますが、原因を調査しますので、装置はそのままの状態で修理相談窓口に連絡してください。

## ■ サーバからディスクが認識されなくなった

次のことを確認してください。問題が解決しない場合は、本製品はそのままの状態で修理相談窓口に連絡してください。

- ・本製品の状態、電源異常発生の有無を確認してください。
- ・本製品の電源が入っているか確認してください。電源が入っていない場合は、電源スイッチを押して電源を投入してください。

## 8 本体仕様

本製品の仕様について説明します。

項目	機能・仕様	
品名	PRIMERGY SX35 ハードディスクキャビネット	
型名	PG-R2DC1	
ディスクベイ	12 ベイ : ハードディスクユニット最大 12 台搭載可能 (ハードディスクユニットはオプション)	
インターフェース	SAS	
	転送速度 コネクタ	3Gb/sec mini-SAS (SFF8088)
電源制御インターフェース	AC 連動	
電源ユニット	標準 2 台 (活性交換可)	
FAN ユニット	標準 2 台	
I/O ユニット	標準 1 台	
消費電力	最大 250W	
重量	最大 35kg	
外形寸法 (mm)	483 (w) ×88 (h) ×660 (d)	
エネルギー消費効率	0.069 (I 区分) * エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める記憶容量で除したものです。	
環境温度 (°C)	5 ~ 35 (動作時)	
AC 入力条件	単相 AC100 ~ 240V 50/60Hz	

# 付録 A ServerView での監視について

本製品をサーバ本体と接続して ServerView を使用することで、サーバ本体から本装置の状態を監視できます。

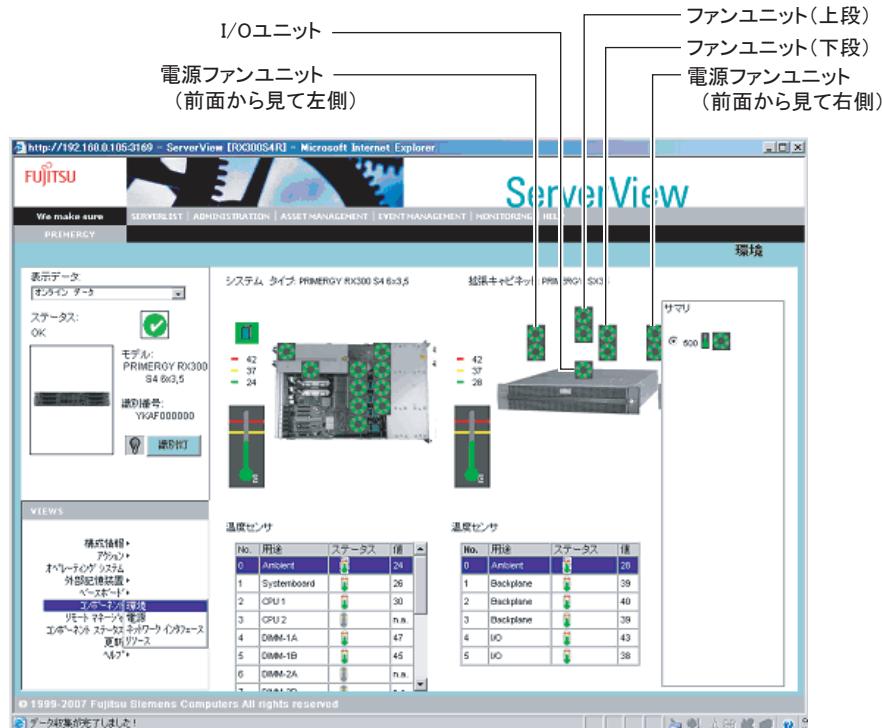
ServerView の使用方法など詳細については、サーバ本体の『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

## POINT

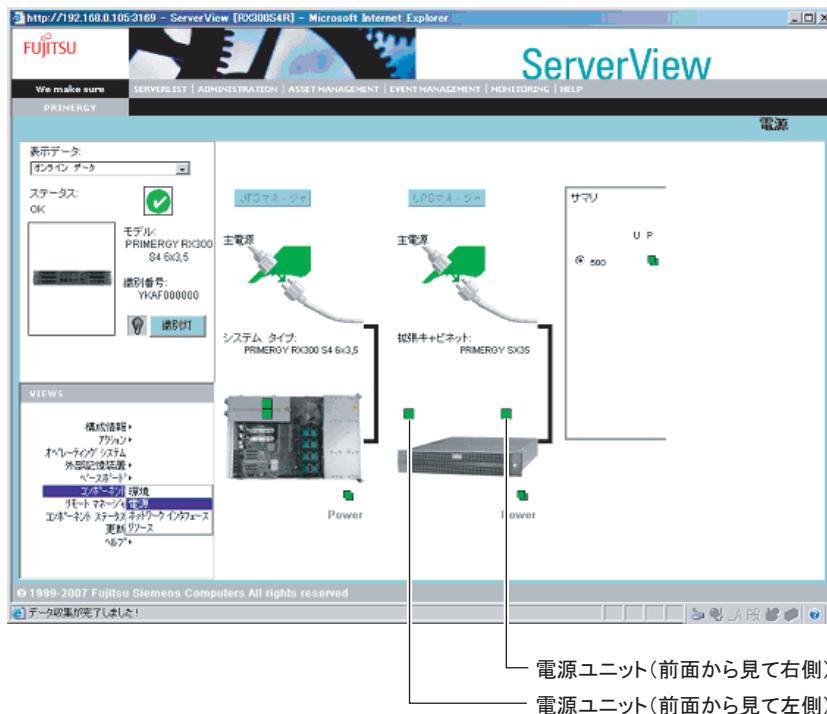
- ▶ ServerView のバージョンによっては、表示される画面が異なることがあります。
- ▶ OSがWindows Server 2003 x64でServerViewをご使用になる場合は、ServerViewエージェント V4.53 以降で本製品の I/O ユニット、ファンユニット、電源ユニットの監視機能をサポートしています。

以下に、ServerView を使用した監視状態の画面例を示します。

## ■ ファンユニットの場合



## ■ 電源ユニットの場合



---

## **PRIMERGY**

**SX35 ハードディスクキャビネット (PG-R2DC1)**

**取扱説明書**

**B7FY-2231-01 Z0-00**

**発行日 2008年1月**

**発行責任 富士通株式会社**

---

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。